

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成27年8月13日(2015.8.13)

【公表番号】特表2013-504313(P2013-504313A)

【公表日】平成25年2月7日(2013.2.7)

【年通号数】公開・登録公報2013-007

【出願番号】特願2012-528394(P2012-528394)

【国際特許分類】

C 1 2 P 13/04 (2006.01)

C 1 2 N 9/86 (2006.01)

A 6 1 K 31/197 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/10 (2006.01)

A 6 1 P 33/00 (2006.01)

A 6 1 P 7/02 (2006.01)

【F I】

C 1 2 P 13/04 Z N A

C 1 2 N 9/86

A 6 1 K 31/197

A 6 1 P 31/04

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 31/10

A 6 1 P 33/00

A 6 1 P 7/02

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年6月16日(2015.6.16)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0069

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0069】

機能的同等物は、少なくとも1カ所で天然のアミノ酸配列と異なっているが、ヒダントイナーゼおよび/またはジヒドロピリミジナーゼの酵素活性は少なくとも部分的にまだ保持している変異体である。機能的同等物は、1つもしくは複数の、たとえば1から20、1から15、または1、2、3、4、5、6、7、8、9、もしくは10アミノ酸の付加、置換、欠失および/または逆位を含んでいる可能性があるが、これは、前記同等物が触媒活性を完全になくさない限り、いかなる配列位置で起こってもよい。機能的同等物はまた、基質および/もしくは生成物のターンオーバー速度が変化し、および/または特定の基質の選択性が変化した酵素であってもよい(たとえば、より大きい、または疎水性の高い、R¹および/またはR²基を有する基質を受け入れる機能的同等物)。少なくとも部分的に酵素活性を保存する可能性の高い置換の、限定的でない例を下記に記載する：

元のアミノ酸残基

起こりうる置換

Ala	Ser; Gly; Val
Arg	Lys
Asn	Gln; His
Asp	Glu
Cys	Ser
Gln	Asn
Glu	Asp
Gly	Pro
His	Asn; Gln
Ile	Leu; Val
Leu	Ile; Val
Lys	Arg; Gln ; Glu
Met	Leu; Ile
Phe	Met; Leu; Tyr
Ser	Thr
Thr	Ser
Trp	Tyr
Tyr	Trp; Phe
Val	Ile; Leu